

輸入アサリの偽装表示対策技術開発

1 中核機関・研究総括者

独立行政法人・水産総合研究センター・浜口昌巳

2 研究期間

2005 年度（1年間）

3 研究目的

現在、流通しているアサリの約6割は輸入アサリであるにもかかわらず、正確な表示がなされていない。そのため、国民のアサリの産地に関する懸念が高まるとともに、消費量が低下している。

そこで、市場に流通するアサリの正確な産地表示を強化するために遺伝子解析による輸入アサリの迅速かつ高精の高い判別方法を開発する。

4 研究内容及び実施体制

① 遺伝子解析による輸入アサリ判別技術の開発 ((独) 水産総合研究センター)

ミトコンドリア DNA 等の遺伝子解析を行い、輸入量の多い中国及び北朝鮮産のアサリと国内産アサリを識別する技術を開発する。

② 輸入アサリの遺伝子変異迅速検出法の開発 ((株) 東和科学)

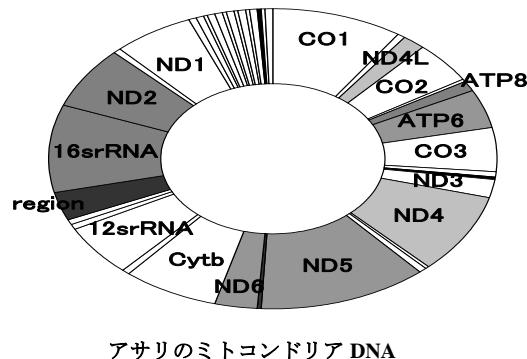
①で得られた知見や技術を利用し、リアルタイム PCR 等による迅速で精度の高い判別技術を開発する。

5 目標とする成果

本課題により、輸入量の多い国のアサリ及び国内産アサリの迅速で正確な判別技術が開発され、それを検査機関に技術移転することにより、全国規模での市場調査が可能となる。それにより、国民のアサリに対する懸念材料となっている輸入アサリを用いた偽装を防止することができるとともに、国内のアサリ産地の保護・育成が推進される。

輸入アサリの偽装表示対策技術開発

遺伝子解析による輸入アサリ判別技術の開発



輸入アサリの遺伝子変異迅速検出法の開発



輸入アサリと国内産アサリの迅速で精度の高い判別技術の開発

アサリの産地偽装表示の防止

正しい産地表示



産地表示の適正化+国内の産地の保護・育成